

## 【後編】“コドモテラス”が創る笑顔溢れる子どもの居場所



こんにちは！コレクティブふくおか+事務局です。

コレクティブふくおか+の「子どもの居場所」チームが、社会課題の解決に向けて取り組んでいる NPO 法人コドモテラス運営委員会の現場へ伺い、インタビューした記事を、前編・後編にまとめてくれました。ぜひ、ご一読ください。

《前編の記事を読む》

### 目標は、子どもの居場所と言えばコドモテラス！

「子どもが主役」を軸に活動してる大野さん。運営していく中で様々な課題も出てきたそうです。まず、資金集めが課題となっているそうです。現状についてお話していただきました。



大野さん：子ども系の助成金は用途の縛りがきつい上、申請の書類、使用計画や使用後の報告など用意するものが多く、それをやる時間がないため、行政や国からの助成金はもらっていません。今やっている活動だとお金がかからないので問題はないですが、人件費などは払っていません。人件費を払うとなると、寄付金などがあるといいですが、実績がないところには企業も寄付したくないし、寄付したからと言ってもメリットが少ないです。認定NPO法人になると損金算入できますが、認定になるには2年はかかるので、それまでは大きい寄付は難しいのかなと思います。まあそこはやっていって実績残して、みんなに知っていただいて、応援したいですと言ってくれる人を作っていけないのかなと思っています。

学生が主体となった運営を行う中で、学生をどのように育成していくのかという課題もあるようです。

大野さん：子どもとの関わり方や、時間の管理、責任感や企画運営を進めていく上でのやり方、人との関わり方などを育成していくのが大事かなと思っています。ただ、学生でお金をもらわずにやってくれているので、こっちもなかなか言えないし、でもちゃんとしてほしいところはちゃんとしてほしいので、そこが難しいなというところですかね。

今のコドモテラスのメンバーは、責任をもって自分の役割を果たす学生たちばかりなので、人に恵まれているから今のところ大丈夫ですね。将来的には僕が何もしなくても学生が自分たちだけで、企画・運営できるようにしたいと思っていて、僕たちはどちらかというと、学生側の意見にアドバイスしたり、お金を出したりするような支える側でできればいいかなと思っています。それに合わせて、もっと主体的に活動に参加してくれる学生がいると良いかなと思います。

コドモテラスについて知ってもらうために、ブランディングやアピール、周知などをどのように行っていけばよいのかという課題もあるようでした。

大野さん：保護者の方が来ている時は、保護者の方に名刺を渡して、ホームページがあるので見てくださいと言って渡していきました。まあそれでいいのかなと思っていて、あんまり変にお金をかけたりせずに、来てくれた人達にこういうことをやってます、次回こういうのやりますっていうのをホームページで確認してもらえたらいいかなと思っています。

また、「一番大きい目標は、子どもの居場所づくり＝コドモテラスになるぐらいの存在になれたらいいかなと思っています。」と話す大野さん。

子どもたちの居場所を作っている他の団体の代表から、子どもの居場所づくり、コドモテラス知ってるよみたいに言われるようになるために、子どもの居場所づくりと保護者の居場所づくりの活動を続けつつ、いろんな大学に拠点を作って福岡市全体で活動を行っていくことで、もっと知ってもらえるのではないかと考えているようでした。

コドモテラスのビジョン、今後の展望として具体的にどのような活動を行って行きたいと思っているのか、うかがいました。



大野さん：いろんな所にサークルみたいな感じで集まって、その近くの公民館でイベントやろうという感じで散らばっていけば、福岡全体でコドモテラスができるようになるので、将来的にはそこまでいけたらいいと思っています。

ただ、大きくすると運営が難しくなるので、そこらへんも悩んでいるところです。各大学に僕みたいなリーダーになってくれる学生がいれば任せやすいんですけど、見つけるのも大変なので、大きくしたいからと言って、大きくして行って、崩壊して、あそこ管理杜撰（ずさん）よねとか、子ども怪我したんですけど、とかなったらいけないので、もっと仕組みづくりをちゃんとしていきたいなと思っています。今後のイベントとしては、単発のイベントではなく、泊まりがけのイベント、キャンプとか農泊体験とか。子ども食堂が今、年に1回しかできてないので、毎月とか、2週間に1回とか開催できればいいなど。あとは、公民館さんからいただく講師費が活動資金にもなっているので、金山公民館以外に、他の公民館か

らイベントをいただいて、交通費や人件費を払えるくらいになりたいです。

このように子どもの居場所を福岡市全体でできるように拡大していきたいという望みを持つ一方で、保護者の居場所づくりもしていきたいそうです。

なぜ、子どもの居場所づくりをしている大野さんは、保護者の居場所づくりも行いたいと思っているのでしょうか？

大野さん：子どもの居場所を作るのは大事だけど、1番良いのは家に居場所があれば、もう僕たちは何も作らなくていいんですよ。だからそれなら、まず家庭に居場所を作らないといけないなって。家に帰りたい、家が一番落ち着くとかゆっくりできるみたいな。

これが今できない状況にあるので、子どもの居場所が必要って言われているんだと思うんですけど。そういうところを根本から変えるためにも、保護者世帯に子育て楽しいよとか、周りに同じ悩みを抱えている人を繋げられるような居場所を提供できればいいなと思っています。親が、望まない妊娠や子育て、1人で育てることでストレスを抱えている状況だったら、子どもたちは僕が見るので、保護者の方で集まって、雑談や座談会などをしてくださいとか、先生を呼んで子育てのストレスや悩みを聞いてあげられる居場所を作れるといいなと思っています。

保護者の居場所づくりを行うことで、家に子どもの居場所を作りたいと考える大野さん。さらに、家以外で、子ども達が自分らしさを発揮できる場所として子どもの居場所を作り、家と居場所の両方で子ども達を育てていきたいとの思いがあるようでした。

大野さん：子どもたちは、小さい時にどれだけ愛情を注いでもらったかによって、人間性が決まってきます。愛情が足りていないと、もう自分はそんなに愛されていないからダメだ、みたいな自己肯定感がすごく下がってしまう子も絶対出てきてしまう。僕の中では、それがなくなることが1番なんです。子どもが、いっぱい褒めてもらって、自分はこういう人間だと自覚できる。そんな風に、自分らしさを家以外でも発揮できる場所を僕たちが作ろうと思っています。

最後に、コドモテラスの今後に対する思いについて話していただきました。

大野さん：子どもが中心にいること、子どもが主役であることを忘れずに、子どもたちが笑顔で過ごせる場所づくりを続けられたらなと思っています。そして、はやく保護者の方の居場所づくりもしたいと考えています。保護者の方と話して、子育てのストレスや悩みなどを聞くことができる居場所を作りたいです。保護者の方の支援をすることで、家に子どもの居場所を作ることにも繋がると考えています。本当に居場所づくりにもいろんな形があるの

で、僕たちは学生が主体の、年の近いお兄ちゃん、お姉ちゃんとして、子どもたちに寄り添えるような、子どもが自分らしさを発揮できる居場所づくりを続けていきたいなと思っています。

### 終わりに

今回、クリスマス会に参加させていただいて、大野さんの笑顔が子どもたちに伝わっていることに驚きました。ドッジボールをしていた時に、大野さんが参加した途端、子どもたちがワクワクし始めたのを感じました。そのワクワクは、子どもたちの大野さんに対する信頼だけでなく、大野さん自身が楽しんでいたことによって生まれたのだと思います。それと同時に、大野さんが子どもたちのことを一番に考え、真剣に向き合っている熱意も伝わっているから、笑顔の絶えない素敵な場所になっているのではないかと思います。

また、子どもの意志をととても尊重した場づくりが行われていると実感しました。イベントの企画段階から子ども達自身で遊びなどを選ぶ方法を考えたり、イベントの最中も、あらかじめ考えていた企画以外で子どもたちがしたい遊びがある場合はそちらを優先したりすることで、子どもたちは自ら進んで遊びに参加し、生き生きと楽しんでいました。

これから先も、コドモテラスのように、居心地がよく、大人も子どもも笑顔になれるような場が増えたらいいなと思います。



【子どもの居場所チーム】とみー（大学院生）・あめ（大学生）

（取材日：2021年12月11日）